

平成23年10月28日
三菱総合研究所 理事長
小宮山 宏

1. 宇宙空間の開発・利用の戦略的な推進体制の構築に関する意見

推進体制の構築については、総合科学技術会議の改組拡充（科学技術イノベーション政策関連）の議論の中に位置づける方がよい。その方が、宇宙の視点だけで考えるより科学技術とイノベーションという大きな視野から合理的判断ができるからである。

2. 宇宙開発戦略において中長期的に推進すべき施策に関する意見

(1) 「3・11」を踏まえた政策展開を

福島第一原子力発電所で発生した問題では、原子力の専門家が他の分野の科学技術者との間に壁を設けて「原子力村」をつくったことによる弱点が露呈してしまった。オープンな体制でなければイノベーションは起きない。宇宙開発においても同様。「宇宙村」の論理に閉じず、分野の違う科学技術者ともっと協力し、俯瞰的に技術を論じるべきである。

(2) 国と民間の適切な役割分担で

宇宙分野における国の役割としては中長期的な研究開発を外せない。例えば、輸送系（ロケット）技術などの基幹技術について、国の役割として、弛まず先端技術を開発、確保していくべきである。

一方、成熟した技術分野では、商業的な宇宙活動の可能性も広がる。民間事業者が宇宙活動に参入していくための制度を国が整備していくことは一案であり、宇宙政策の司令塔たる内閣府が取り組むべき重要な仕事ではないだろうか。

以上